



「介護の仕事を通じ、新たな自分を見つけることができます」

座談会



Q みなさん、介護の仕事は、何年目？

「必死について行こうとした1年」



家崎

家崎 2年目になります。クレイドルやけやまで、必死について行こうとした1年でした。

加藤 私もふくがくちの里では2年目になりますが、私は新潟市の施設で1年間働いていました。

建部 僕は、3年目です。ずっとふくがくちの里で仕事をしています。

土橋 6年経ちました。ふくがくちの里に4年、クレイドルやけやまに2年目になります。

Q 介護の仕事に就こうと思ったきっかけは？

「悩むってことは、もうやりたくなっている」

建部 (少し考え込んで)何年か前にスーパーのレジに並んでいるときに、前のお客さんが急に胸を押されて座り込んだんですよ。慌ててお店の人と脇を抱えて椅子まで連れて行きました。しばらく休むと具合も良くなり、その時に手を取って感謝されたんですね。人の役に立てた嬉しさ、気持ちよさは、ずっと心に残っていました。それから、私の祖母が認知症で施設へお世話になった時に面会に来て、介護の仕事を意識するようになりました。

土橋 建部君は、違う仕事をしていたでしょう。

建部 はい。ブライダル関係でしたが、営業の仕事をしていました。

土橋 転職は、悩まなかった？

建部 悩みましたよ。しばらく、悩みました。

加藤 私、何かで聞いたことがあるだけれど、「悩むってことは、もうやりたくない」とってことなんだって。

家崎 そうなのか～。私は事務職から転職したんだけど、人と接する仕事がいいなあと想い、ハローワークに相談に行つたんです。そこで保育士か介護士か迷っているって言ったら、「保育士の仕事は無いです」って言われて、お年寄りも好きだって言ったらヘルパー2級の資格取得を勧められたんですね。それで実習に来たのがクレイドルで、その時に「ここで働いてみたい？」って誘ってもらったのがきっかけで、今に至っています。

土橋 私は母親が介護士で、何となく興味があったから、高3の夏にボランティアでふくがくちの里へ行ったの。あの頃は全然何にも知らなかったなあ。「認知症」ってどういうことを言うかも知らなかつたから(笑)

建部 それによくボランティアしようと思いましたね(笑)

土橋 軽い気持ちだったのかもしれない。友達も行こうって言うし(笑)。ほんとに何も知らなかつたんだけど、利用者さんと関わったり、介護士さんといろいろ話をしていく中で、「どうしてなんだろう？」って疑問に思うことがたくさんあって、「もっと勉強したい！」って、なっちゃんて、介護の学校へ行くことに決めたんだよ。

Q 介護の仕事って楽しい？

「とても温かい気持ちになることがあるんです。」

建部 楽しいことばかりではありませんね。辛いことや悲しいこともあるけれども、それは他の仕事でも何からあるはずです。

土橋 私も毎日楽しいわけではないけれど、仕事の中でも利用者さんとレクリエーションを行ったり、温泉に行ったりする行事は楽しいよね。利用者さんの好物を食べに行く企画で『にしんそば』を食べに行ったんだけど、意外とおいしかったなあ。利用者さんも大喜びだったし…。

建部 だけど、普段自分で食べに行って『にしんそば』の選択って、ありえないよね？

普通の若者は知らない世界が近づく、この仕事ならではと思う(笑)

家崎 知らない世界かあ(笑)私はまだそういうの行ったことないからなあ。

建部 僕も先日、余暇活動のなかで、プランターでの野菜作りをおこなった際に利用者さんから野菜作りを教えてもらいました。この仕事の楽しさって、話をしている時や介助をしている時だけではなく、自分の知らない世界を利用者さんから教わるという場面でも感じることができます。

土橋 利用者さんと自分の意外な一面を見発見できたりするんだよね。行事って楽しいです!!

加藤 「楽しい」に当たはまるかは分からなければ、利用者さんと接している時に、とても温かい気持ちになることがあるんです。上手く言えないけれど、その時は一番、この仕事をやっていて良かったなあと思います。

Q この仕事の『やりがい』って？

「絆を保つために、私たちは、毎日頑張っているんだなあ」

家崎 自分が関わった利用者さんから喜びを聞けたとき、感じたときにこの仕事に就けてよかったと思います。

建部 利用者さんや職員と信頼関係が築けて、仕事が出来ているときに実感します。

加藤 また、そういう風に先輩が持つて行ってくれるので、意外と早く打ち解けることができた気がしますね。

家崎 私は、自分が得た知識や経験を現場で活かせたとき、とてもやりがいを感じます。ひすい福祉社会は、私が以前いたところよりも施設内外の研修や交流が充実してますから、新しく知識や経験を得る機会がとっても多いと感じます。どんどん新しいことを学んで、自分が成長していく、出来ることが増えて、利用者さんが喜んでくれる。結局、私のやりがいもそこにつながるのかなあ。

土橋 私も最初の頃は、そう思っていたような…。今は、体調や気分が違う一人ひとりの立場になって考えたり、

家族の意向もある中での『その人らしく』生活できるかを追求し、考えて向き合って出た答えが、利用者さんの笑顔や安らぎにつながったと思う瞬間…って、みんなと同じこと言ってるかな(笑)

加藤 面会でのご家族と利用者さんの顔を見ていて思うことは、この関係というか絆を保つために、私たちは、毎日頑張っているんだなあと。うまく言えないけれど、『関係を支えている』という実感があるんですよ…。

建部 僕もショートステイの担当になってから、在宅で介護をしている家族が、施設や僕たちがいることで『助かっている』と伝わってくることがあります。よく考えると加藤さんの言うように、僕たちの仕事がそれぞれの家族を支えているんだなと思えてきました。それは確かに『やりがい』だと思います。

Q 想像していたことと違うところは？

「悪いところは反省し同じ失敗をしない！」

加藤 私は、中学のころからボランティアで地元の施設へ行っていたので、思っていたことと大きく違うことはなかつたかなあ。

建部 介護の専門学校を出なければ通用しないと思っていた。でも、気持ちがあれば、知識や技術は、仕事をしながらでも十分身に付くものだなと感じています。

家崎 私は、この仕事がやりたくて転職してきたので、目の前に起こることの全てが新鮮で、新たな自分を見発見することもできました。自分自身の良いところは伸ばせ、悪いところは反省し同じ失敗をしない!と次に活かせるよう工夫しています。

土橋 施設にいる方は介護度が高く、認知症や寝たきりの方が多いので、思っていた以上に精神的・肉体的にハードです。実習や学校で習ってきた事、教科書・マニュアル通りにいかないことが多いなと思います。

Q 交代勤務ってどう？

「つらいというより楽しみにしている部分がある。」

加藤 「どう？」って聞かれても、そういうものだと思っているから…。

家崎 私もそういうものだと思っていました。

建部 やっぱり最初はキツかったけれど、慣れれば大丈夫かな…。

土橋 人それぞれだと思うが、自分は早起きが苦手なので不規則な勤務だと、朝のんびり出来る日もあるので良いと思っています。その日の勤務によって過ごし方も変わってくるので、つらいというより楽しみにしている部分があります。

家崎 土橋さんのそういう前向きなところは、良いですよね。

土橋 ありがとう。

Q 交代勤務の時間の使い方、休みの過ごし方は？

「勤務形態って、釣りにぴったりなんですよ。」

土橋 土日休みも良いんだけど、平日休みだといろいろな特権があると思う。例えば、レディースデイでランチや映画が安かつたり、人混みが少なく、買い物ものものんびり出来るとか、銀行や病院など公共の場を利用するときも平日休みがあると困らない。

加藤 私は、日帰り温泉によく行きます。糸魚川には、良いお湯の温泉がたくさんあります。やっぱり平日料金だったり、空いていたりは良いですね。ミストサウナで疲れを癒したいけど、混んでいると遠慮してしまうところもあるし。

建部 僕は釣りが趣味なんですけど、ふくがくちの里の勤務形態って、釣りにぴったりなんですよ。平日だと良いポイントも競争率高くないし、海を独り占めする感覚になります。こないだもグッドサイズのスズキを釣ることが出来ました。



土橋

Q 介護に就こうと思っている人に向けて 「自分の視野や世界観が広がる」

家崎 日々やりがいを感じて介護をしています。介護の仕事に少しでも興味があるのであれば、大いにおすすめ致します！嫌なことや苛々してしまうこともあります。そういう時は、出来るだけ早く気持ちを切り替えることを心がけました。なかなか難しいところですが…。きっと介護の仕事を通じ、新たな自分を見つけることができますよ！

建部 もし今、介護の仕事をしようか悩んでいるとしたら、まず聞いてみたらいいと思います！そこまでいかなくても、いつでも見学に来てもらいたいかな。頭で考えているより体で感じることもあると思います。

加藤 中途採用の私も新人研修を受けさせてもらいました。研修のおかげで不安は少しずつ消え、今では前向きに利用者さんと向き合っていると実感しています。介護の仕事は、自分の視野や世界観が広がる仕事です。

土橋 正直、とても大変な仕事です。相手が「人」なので、コミュニケーションをとることや人と関わることが好きじゃないとできないと思います。でも、一緒に考えてくれたり、アドバイスをして下さる先輩、上司がいます。この職場では、そんな尊敬できる先輩や上司の背中を見て、私自身成長出来る場かなと感じています。ぜひ一緒に働きましょう。